

## 2024年 第3回 須坂市水道料金等審議会 議事録(要旨)

### ○開催日時場所

2024年8月7日(水) 午後1時30分～午後3時20分  
須坂市役所 本庁舎3階 305会議室

### ○出席者

委員(10名) 中島委員、湯本委員、中村委員、藤沢委員、永田委員、大倉委員、  
小林委員、古川委員、杉田委員、吉川委員  
幹事(2名) 勝山水道局長、中山上下水道課長  
書記(7名) 千葉課長補佐、平林課長補佐、富沢(文)課長補佐、富澤(一)課長補佐、  
宮川(俊)課長補佐、松原主査  
委託事業者(2名)

### ○傍聴人

報道機関1社

### ○配付資料

会議次第  
須坂市水道料金等審議会名簿  
経営戦略の将来推計(水道事業)  
経営戦略の将来推計(下水道事業)

### ○会議の状況

1 開会(中山課長)

2 あいさつ(勝山局長)

3 あいさつ(中島会長)

4 審議状況

(1) 経営戦略の将来推計(水道事業)について  
(2) 経営戦略の将来推計(下水道事業)について  
事務局より説明を行った。

これに対し、委員から出された意見・質問の概要は次のとおりである。

委員 物価上昇率、人件費上昇分は何パーセントを想定しているか。

事務局 資料の10ページに記載がありますが、物価上昇率は毎年0.8%、人件費上昇率は毎年0.5%で試算をしています。将来の数値は、経営戦略策定の要件のため算出をしています。

委員 下水道事業は一般会計からの補助があるが、水道事業はありますか。

事務局 水道事業は基本的に独立採算となりますが、基準内繰入れというものが定められ、地方公営企業職員に係る児童手当の給付に要する経費や消火栓の設置及び管理に要する経費が該当し、一般会計より繰入れしています。

委員 長野県の水道普及率は84%で全国10位、下水道普及率は30数%ということで、古より水のある所に人は集まることから、料金を安くすることで人口が増える可能性はある。

市町村の政策の違いで料金が異なっていることは理解できるが、須坂市だけ特別高くなると違和感がある。現在長野・上田地域で広域化の話が出ているが、須坂市は独自で運営していく想定であることから、値上げだけではない様々な工夫が必要である。工夫の内容については、今後の審議会の中でお示しいただきたい。

事務局 料金の改正だけにならないよう、審議会で審議をし、工夫した内容になるように経営戦略を策定したいと考えています。

参考に、2023年度における長野県内での料金の安い順位は、口径20mmで20㎡使用した場合、須坂市は19市中10番目となっています。

委員 下水道事業の13ページで収益が増加したり減少したりすることに関して、人口減少等が要因ということは理解できるが、詳しくご説明してください。

事務局 棒グラフの青色部分である収入に関しては単純に減少しており、灰色のグラフは固定的な経費と変動的な経費があり、変動的な経費の大半が減価償却費になります。

減価償却費に関しては、建設に掛かった費用を耐用年数に割り返して毎年度支出をすることとしています。

公営企業会計のルールとして経理処理をしていますが、減価償却費はお金が出て行っているわけではありません。収入も同じく耐用年数に割り返して複数年度で収益化を行っています。

委託事業者(株式会社ぎょうせい)

補足します。当期純利益が波を打つことは、過去の減価償却費が大きな要因を占めています。資料の8ページにあるとおり、採用ケースと不採用ケースの2パター

ンがあり、不採用ケースというのが法定耐用年数で更新をした場合の灰色の線、こちらを採用すれば13ページのように波を打つことはありません。

投資を今回は抑え、新たに投資する場合に過去の減価償却費が一旦止まると考えていただければと思います。

今後更新投資をする際には、優先順位等を考えながら投資をしていくため、一旦は過去の減価償却費は、すべて償却しきった、いったん底をついたところから物価上昇等右肩上がりで上がっていく推計になっています。

委員 減価償却費との関係性を教えてください。

委託事業者(株式会社ぎょうせい)

10ページに記載のある、収益的収入と収益的支出の差し引きが当期純利益となります。また、収益的支出のうちの営業費用の中に(3)減価償却費がありますが、減価償却は、過去分+新規投資分になります。

新規投資分が9ページのピンク色の線、推計値から算定したところから生じる減価償却費、2024年度であれば、5億6600万円の固定資産を取得するので、これを法定対応年数で減価償却して発生したものを新規分として推計を行っています。

過去分は、これまでの更新投資の結果の減価償却費、13ページの灰色の棒グラフの収益支出に入っています。灰色の棒グラフが徐々に右肩上がりで上がっていき、2071年度ぐらいから徐々に下がっているところは、過去分の減価償却費がいったん終了する形となります。ただし、物価上昇が続いているため将来も右肩上がりで推移する結果となります。

これまでの減価償却費としてたまっていた部分も、維持管理費等で費用計上されたことから、今後は人口減少を見据えて縮小化しながら、更新投資を図っていく計画をストックマネジメント計画で策定されています。

委員 今回示されたケースでは耐用年数を一年ほど経過して利用できたとしても、いずれ限界が来ることについて、今回の料金値上げは必然的ということになりますか。

料金改定した場合の19市の順位を教えてください。

事務局 料金改定をすることが決まったわけではないので、改定後の19市の順位は出しておりません。

21ページにて結論付いた形で書きましたが、これはあくまで総務省が提唱している手法の計算に従うとこれだけ必要になります。という結果をお示しました。

次回は、須坂市として経営努力も踏まえたシミュレーションを準備しますので、審議をお願いします。

委員 下水道事業の7ページ、前回の経営戦略と比較して下水道使用料については改善しているが、前回と比較の算出方法が変わったのか。

事務局 考え方は変わっていませんが、前回は人口減少に関して厳しく算出をした可能性があります。

一方、更新投資については、災害に強い管路敷設等一部考え方が変わったところもあります。

委託事業者(株式会社ぎょうせい)

補足します。基本的な考え方は変わっていませんが、17ページの【持続可能なサービスの提供において必要不可欠な考慮事項】に関しては、今回から追加で示された事項となります。

## 5 その他(事務局)

次回の審議会の日程につきまして、10月2日(水)13時30分より、305会議室にて開催をたく、予定のご調整をお願いいたします。

また、9月10日は下水道の日ということで、クリーンピア千曲主催のイベントがあるので、是非ご参加ください。

## 6 閉会(中山課長)